

131220 21世紀文明研究セミナー2013(人と防災未来センター東館)  
南海・東南海地震を踏まえた広域災害への対応  
「安全安心のまちづくり」

# 都市環境に配慮した 防災(うたれ強い)まちづくり

## Disaster Restoration for Community Development "Machizukuri" Considered Urban Environment

小林郁雄 KOBAYASHI, Ikuo

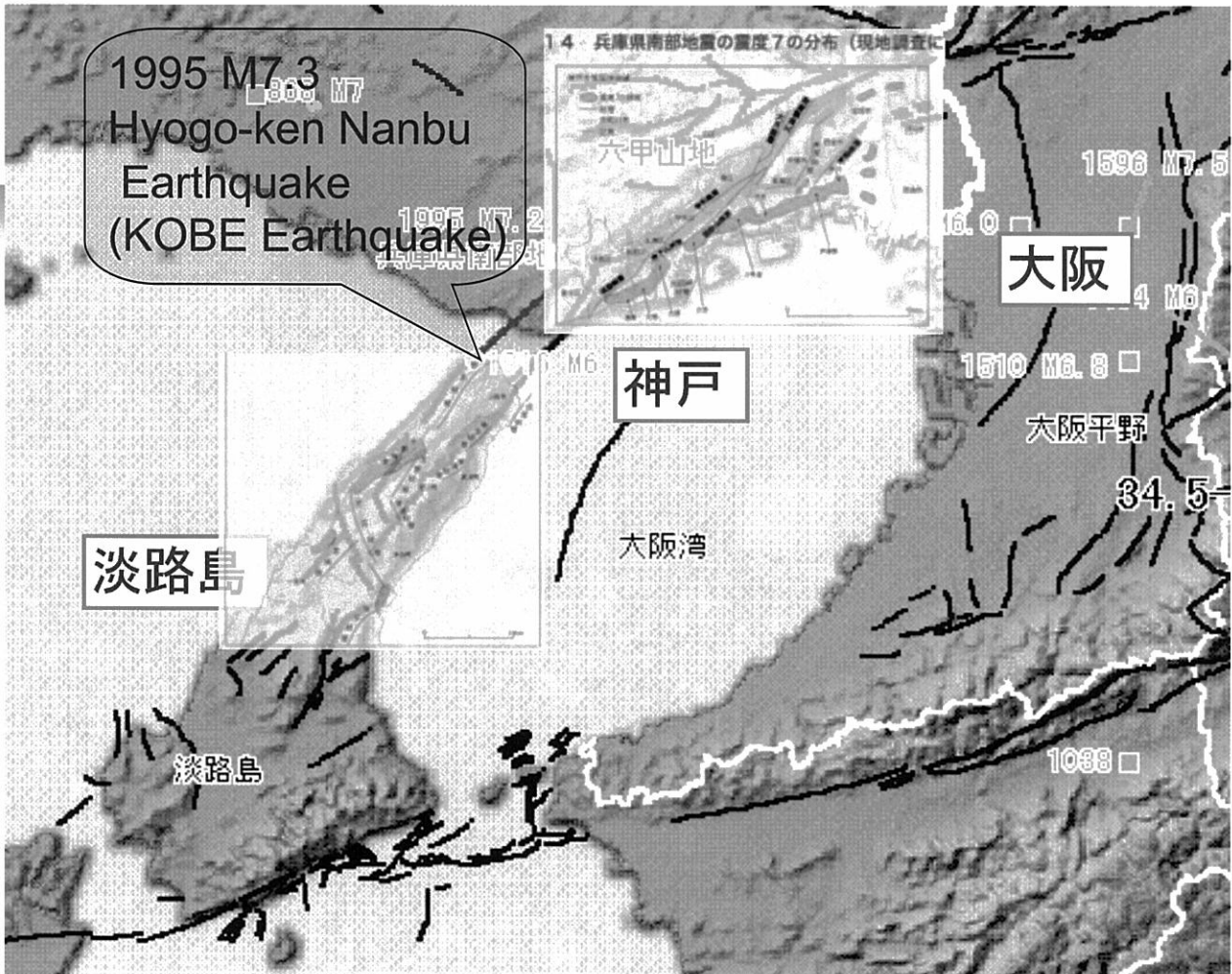
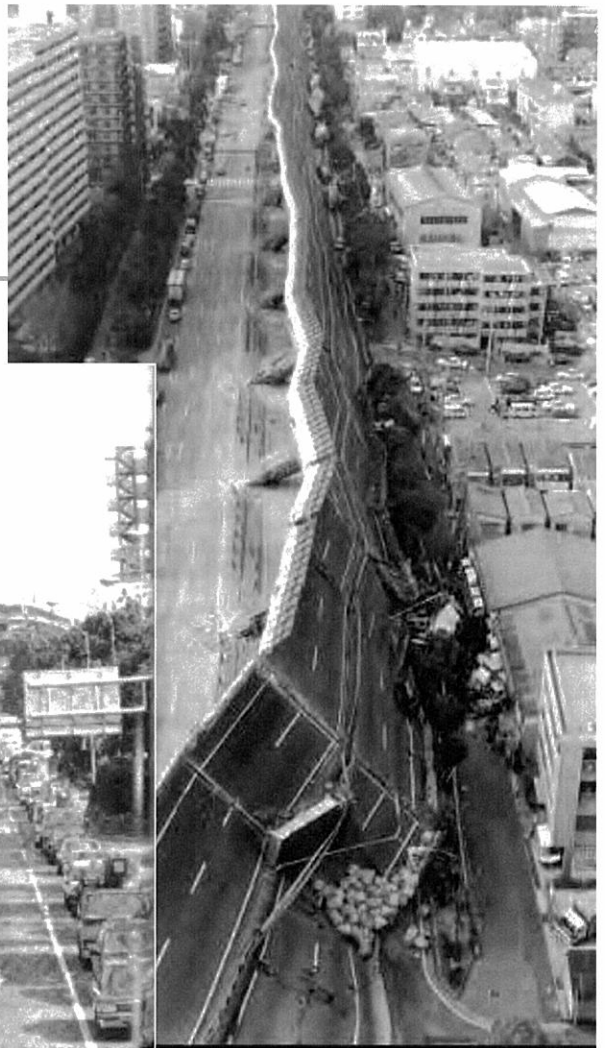
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター上級研究員  
阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク世話人

1995年1月17日 午前5時46分阪神・淡路大震災  
Hanshin-Awaji Great Earthquake 17 Jan 1995

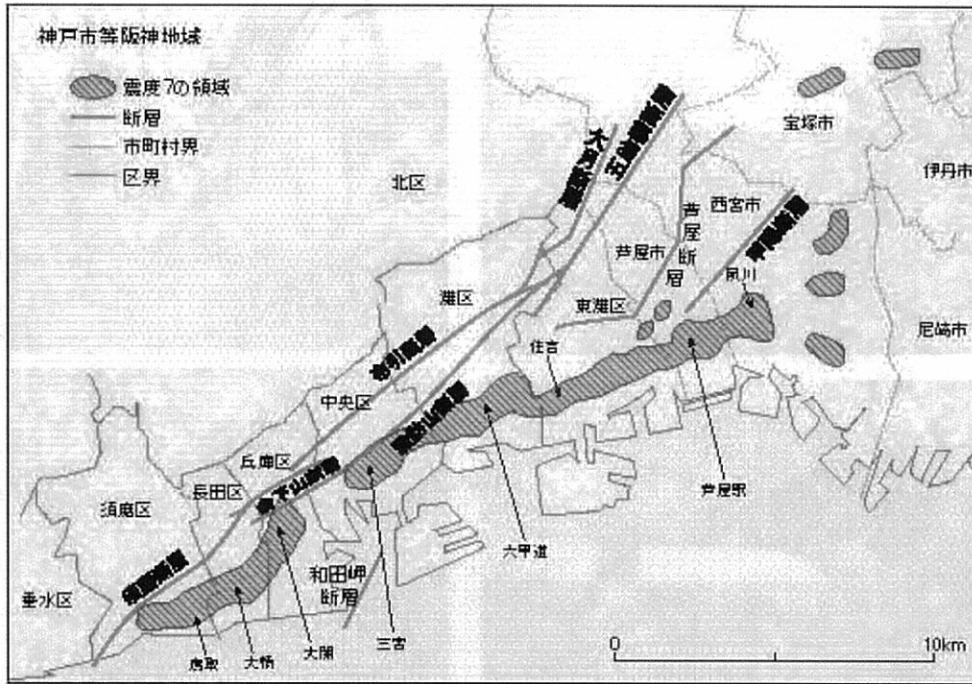


マクニチュード 7.3

# Highway Broken Down 阪神高速道路の崩壊



# 兵庫県南部地震1995・阪神・淡路大震災 震度7領域



兵庫県南部地震  
震度7域  
1995

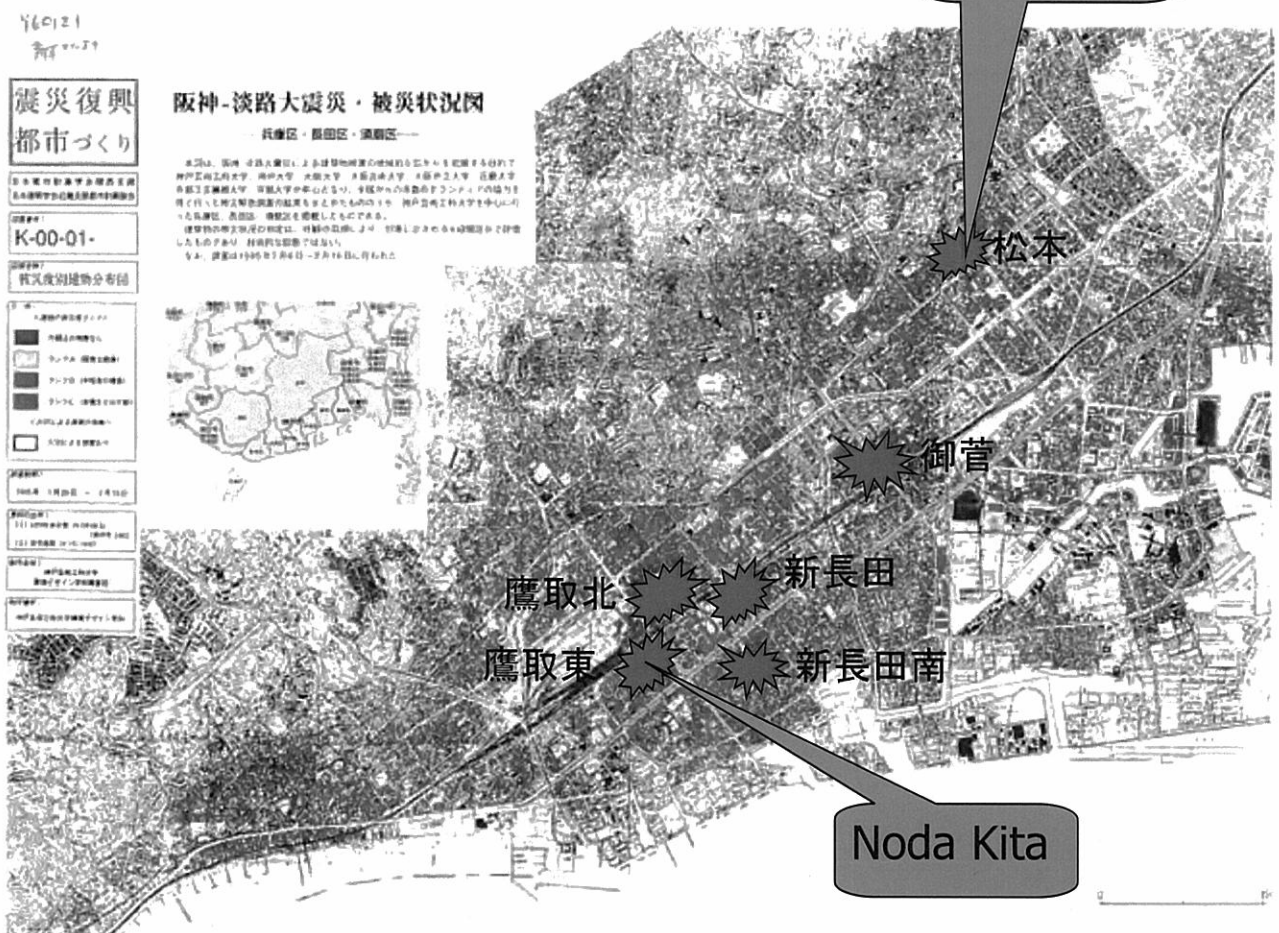


# 阪神大震災の被害状況

神戸市長田区鷹取周辺 Nagata, Takatori (Noda Kita)



## 神戸市西部被災地図



# 一夜が明けた街



# 地域住民による救出活動



# 1. 防災まちづくり

## Disaster Restoration for Community Development "Machizukuri"

災害に対応する非常時の状況にも、

緊急時（3日間程度、10の2乗時間=100h=4.2日）

応急期（1~3ヶ月間程度、10の3乗時間=1000h=41.7日）

復旧期（1~3年間、10の4乗時間=10000h=417日）

復興期（約10年間、10の5乗時間=100000h=4167日=11.4年）

といった時期に応じて、さまざまである。

防災や最近、特に重要視されてきた減災を考えるのは、復興期あるいは復旧期での対応である。もちろん緊急時・応急期における対応の事前準備も含まれる。

# 1. 防災まちづくり

## Disaster Restoration for Community Development "Machizukuri"

「まちづくり」を私は、「地域における、市民による、自律的継続的な、環境改善運動」と定義している。すなわち、まちづくりは運動である。

防災まちづくりとは、災害に対応するまちづくり、すなわち、思いも寄らぬ緊急的な対応が迫られる事態に即応できる地域的・市民的な環境改善運動である。必ずしも、緊急対応策（地域防災計画の大部分は、それに費やされているが）ではなく、防災・減災をめざした日常的な取り組みが重要である。

## 2. 都市環境の改善

### Innovation Urban Environment

防災・減災のための都市環境の改善として、まず考えられるのは災害に強い都市構造の整備である。

自然環境の災害対策の基本的条件が整っている前提で

幅員や線形がしっかりした道路河川

適切に配置・整備された公園広場

災害対策を考慮した電気・ガス・上下水道

加えて、住宅・商店などの建築物が適切な密度で配置され、耐震・防火などの性能を十分に有するとともに、それらが継続的にメンテナンスされていることも重要である。

## 2. 都市環境の改善

### Innovation Urban Environment

都市環境基盤の整備改善が防災の基本ではあるが、経済的効率や政治的判断などから、都市機能とのバランスの上で必ずしも防災最優先で資本投下がなされ訳ではない。

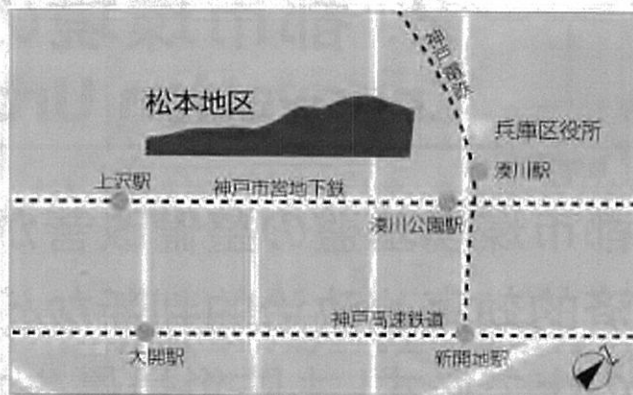
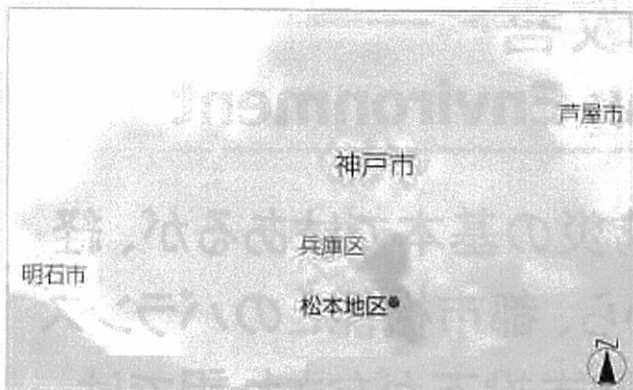
いし、当然、一夕一朝に整備が終わるようなものでもなく、長期にわたる継続的整備が必要なことにもなる。

こうした都市環境の抜本的な改善に向けた努力とともに、日々の防災環境改善運動として防災まちづくりに取り組

### 3. 松本せせらぎ (神戸市兵庫区松本地区) Matyumoto Stream

- 松本地区は神戸市兵庫区の中央部にある面積約9haの木造長屋などの住宅が密集した地区であった。1995年の阪神・淡路大震災において、大規模な火災により80%が消失し、壊滅的な大被害を受けた。神戸市による震災復興土地地区画整理事業によって復興が進められた地区の一つである。
- 松本地区では、施行区域と都市計画道路松本線(幅員17m)の2つが第1段階として都市計画決定され、第2段階の都市計画とまちづくりの詳細については、住民と神戸市が話し合いながら計画を検討し内容を決めていく方式が進められた。この2段階都市計画方式は住民と行政の協働のまちづくりを進めていくうえで、震災復興事業において有意義で、今後のまちづくりにいて重要な方法となった。

### 神戸市兵庫区松本せせらぎ Matyumoto Stream



#### ■復興まちづくりの経緯

- <平成7年>
  - 5月7日 / 「松本地区まちづくり協議会」設立
  - 12月18日 / まちづくり提案(その1)を神戸市に提出
- <平成8年>
  - 3月26日 / 事業計画決定
  - 7月15日 / まちづくり提案(その2)を神戸市に提出
  - 11月6日 / 地区計画決定
  - 11月30日 / 仮換地指定開始
- <平成12年>
  - 11月 / せせらぎ着工
- <平成13年>
  - 9月30日 / せせらぎお披露目式

#### ■Chronology of Restorative Urbanplanning

- <1995>
  - May 7 'Matsumoto Area Community Development Council' established
  - Dec. 18 'Community Development Proposal No.1' presented to the City
- <1996>
  - Mar.26 Areas approved as Land readjustment project
  - Jul.15 'Community Development Proposal No.2' presented to the City
  - Nov.5 Detailed District Plan determined
  - Nov.30 Designation of the provisional Replot started
- <2000>
  - Nov. Construction of the stream started
- <2001>
  - Sep.30 Ceremony to celebrate the completion of the stream



神戸市兵庫区松本地区  
震災復興土地地区画整理事業



震災前 平成6年5月 Before the earthquake may 1994



震災後 平成7年5月 After the earthquake may 1995

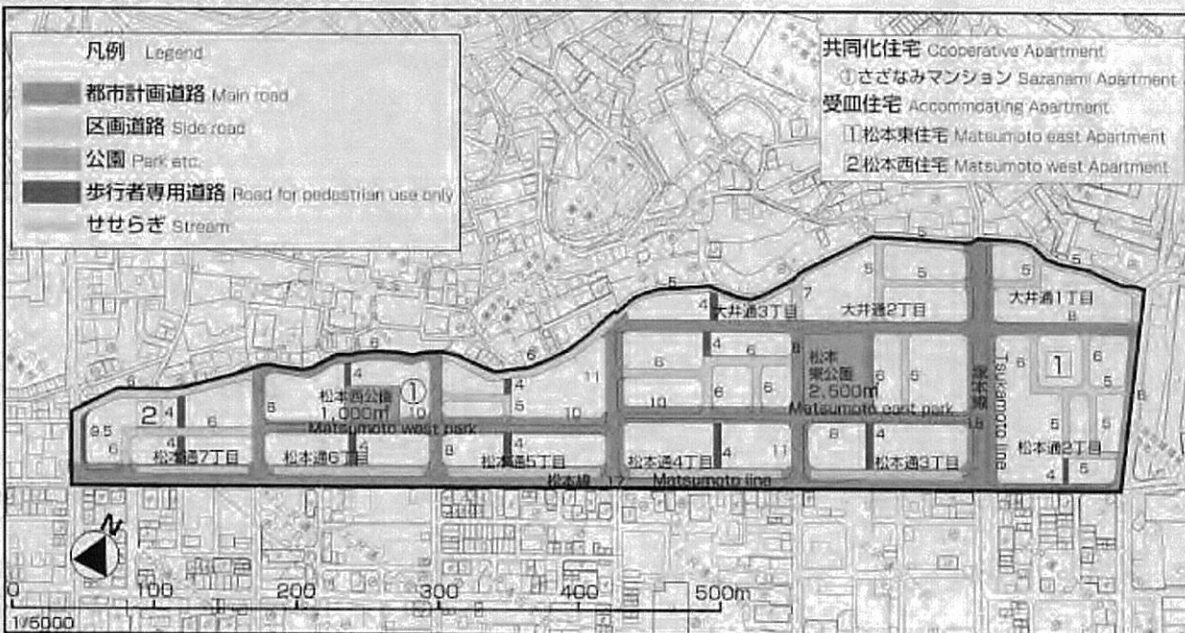
■地区と事業計画の概要

地区面積	8.9ha	
震災前 人口・世帯数	2,367人・1,206世帯	
状況 建物棟数	641棟	
被災状況	全壊(焼)数	429棟
	半壊(焼)数	88棟
	被災率	81%
事業計画決定	平成8年3月26日	
減歩率	9%	
総事業費	約249億円	

■Outline of the Project program

Area	Population & no. of households	8.9ha
Before the earthquake	Total no. of houses	2,367 people, 1,206 households
	Totally destroyed	641
Damaged structures	Partly destroyed	429
	Percentage destroyed	88
	Percentage destroyed	81%
Conclusion of project	Area reduction rate	March 26, 1996
Area reduction rate	Total project cost	9%
Total project cost		Approx. ¥24.9 billion

■道路・公園・せせらぎ等計画図 Plan of roads, parks and the stream

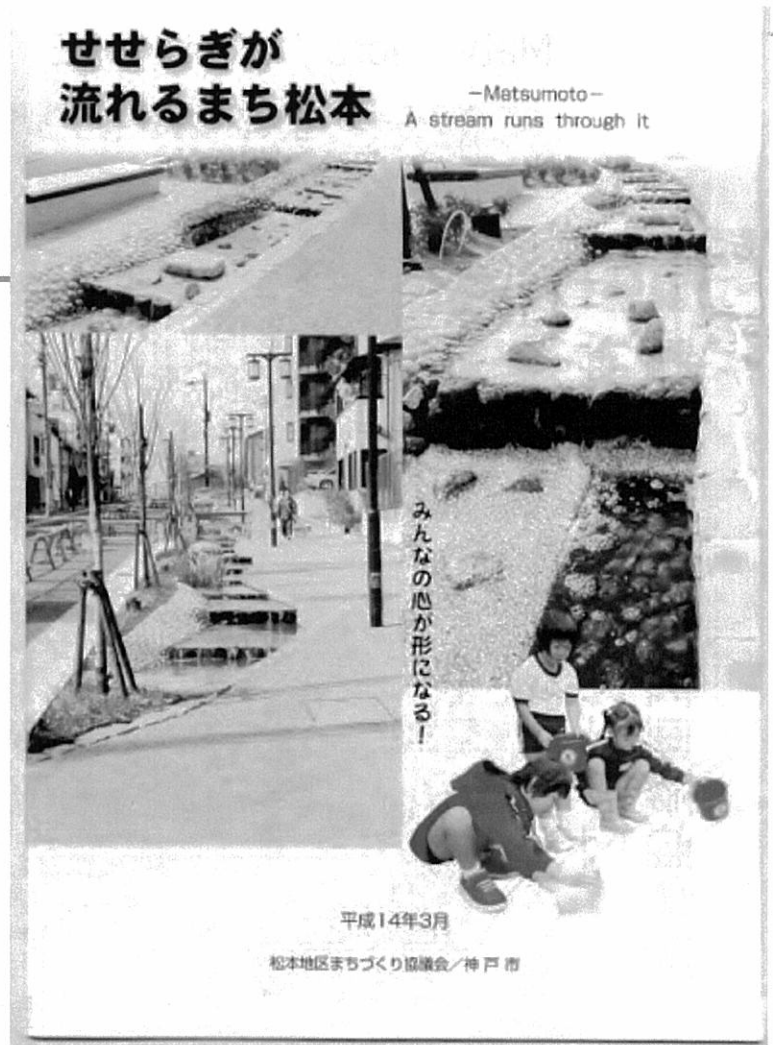


この冊子は、古紙配合率60%です。

# 神戸市兵庫区 松本せせらぎ Matyumoto Stream

「松本せせらぎ」は震災火災の教訓から作られた水路であり、初期消火用水・災害後の生活用水として役立つであろう。

しかし、もっとも重要な役割は、その水路管理を沿線住民が自律的継続的に行うことによって、地区環境への関心を高め、相互の人間関係を深める装置として「せせらぎ」があり続けることである。



## After Earthquake, Matyumoto district



Now



7丁目

Creating stream



せせらぎを作ろう！

まちづくりの事業に住民参加の取り組みが盛んに行われ、上地区正体団地まちづくり推進協議会（以下協議会）は、2005年度から「せせらぎ作り」に取り組んできました。児童では、身近な環境、歩道の舗装材料や、水たまりの解消などを主な対象として、7丁目の児童が、協議会と協力して、せせらぎ作りを行いました。

6丁目



せせらぎ作りは、歩道の舗装材料や、水たまりの解消などを主な対象として、7丁目の児童が、協議会と協力して、せせらぎ作りを行いました。

4丁目



せせらぎ作りは、各丁ごとに限定的です。7丁目の児童は、77坪、縦やのせりー丁目、クラック部の67坪、総計約47坪、シンクは約31坪、歩道の舗装や水たまりの解消など、それぞれで取り組まれました。



歩道の舗装は、試行錯誤を繰り返して、水の貯留で決めました。ポイントは、歩きやすいこと、足に負担が少ないこと、景観的に美しいことです。







## 4. 野田北ふるさとネット(神戸市長田区鷹取地区)

### Noda Kita Community Network

---

「野田北ふるさとネット」は復興都市基盤環境や地域防災組織などの整備が進められた中で、地域のゆるやかな連携、総合窓口、情報共有の場としての機能を担うべく始まった。

この自律的継続的な住民自らのネットワークが果たす究極の役割は防災・減災にあることを、ふるさとネットの構成員は意識していない。それもまた、防災まちづくりにおいては、重要なことかもしれない。

## 4. 野田北ふるさとネット(神戸市長田区鷹取地区)

### Noda Kita Community Network

---

野田北部地区は神戸市長田区最西部にあり、多くの木造長屋住宅が密集した約13haの典型的な神戸の下町地区であった。

阪神・淡路大震災で地区の東部は大規模な火災にみまわれその復興に震災復興土地区画整理事業が、焼失を免れたが大部分の家屋が倒壊した鷹取駅に近い西部は街並み環境整備事業で復興整備が進められた。

いくつもの事業に対応して多くの地元組織が立ち上がっていった。

# 野田北部地区の位置 Noda Kita District



<1994 (平成6) 年の航空写真>

長屋と路地のまち

震災前の路地  
Before Earthquake



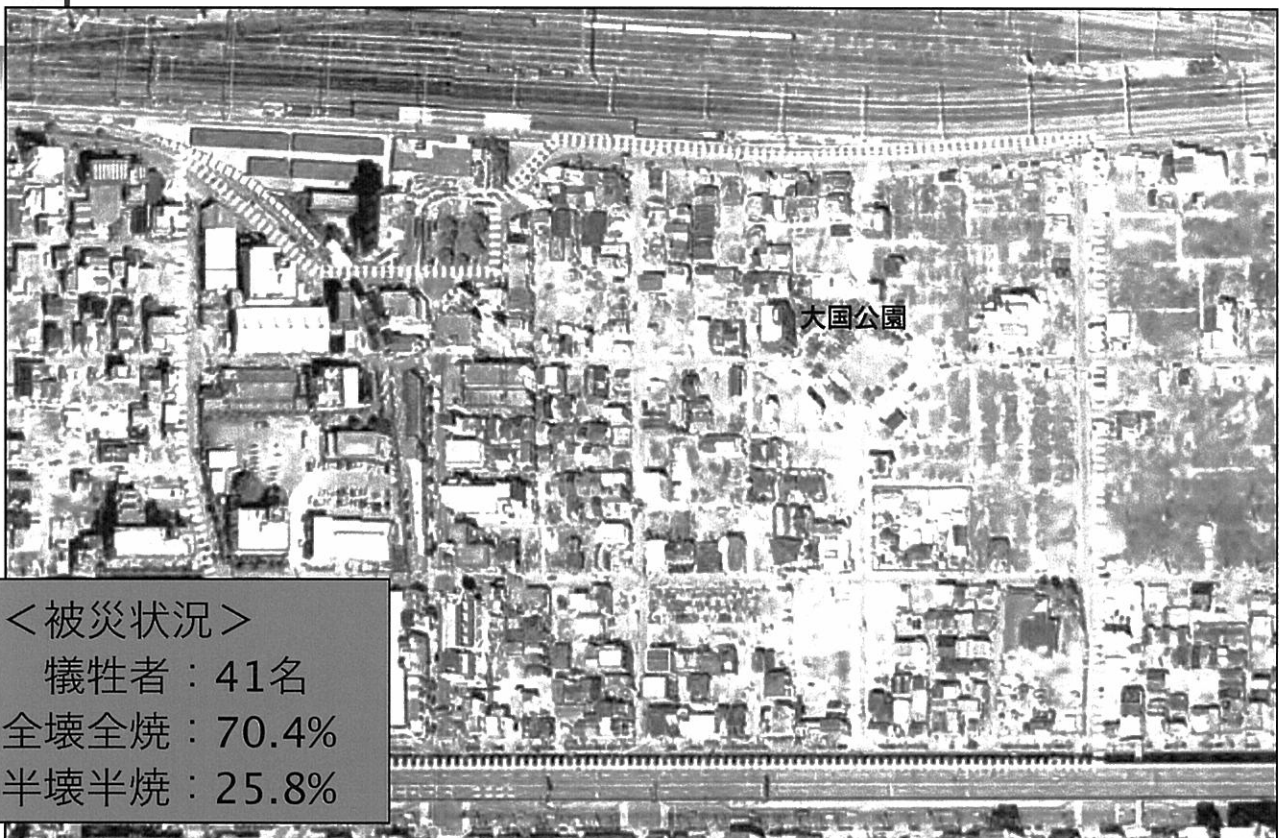
1995（平成7）年1月17日午前5時46分  
阪神淡路大震災発生







## 震災から100日後の様子 100 days after the earthquake





West-Kobe Nagata-ku Takatori (Noda Kita)



# 全焼した海運町2・3丁目は区画整理地区に



# 震災以降のまちなみ環境づくり (1995-2002)



# 震災後の路地

After Earthquake

～きれいになった街なみ～



生活感のある路地



## 路地の文化 地蔵盆と子どもたち



## 路地コミュニティの復活

路地フェスタ（1999年）

左：サンマ焼き

下：路地絵コンテスト



## 4. 野田北ふるさとネット(神戸市長田区鷹取地区)

### Noda Kita Community Network

1993年にまちづくり協議会が発足し、震災復興土地区画整理事業等まちの復旧・復興に目覚しい活躍を行うなど、まちづくりを先進的に展開してきた全国有数の地域コミュニティで人情味ある下町。

2002年4月に地区内のすべての組織・団体の連携からなる「野田北ふるさとネット」を設立し、地域内の課題解決や活性化などについて検討してきた。

地域内各団体がゆるやかな連携で結ばれており、まちの美化、ルールやマナーなどの課題に対して先駆的取り組みを行う。

## 4. 野田北ふるさとネット(神戸市長田区鷹取地区)

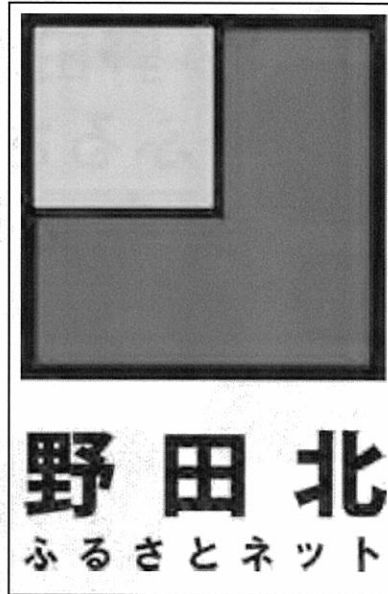
### Noda Kita Community Network

<野田北部地区の各団体の概要>

記号	組織名	会員の構成	発足	発足のきっかけ	発足目的	活動内容
■	野田北部まちづくり協議会	自治会・婦人会・老人会・子供会役員、民生委員、市政懇談委員	H5	商店街の活性化計画	うるおいとやすらぎをテーマに地区の将来を考える	大国公園とコミュニティ道路整備計画 (H6.12完成) 鷹取商店街活性化計画、各種事業の協議
□	鷹取東まちづくり協議会	事業地区内自治会役員	H7	震災復興土地区画整理事業決定	震災復興土地区画整理事業の推進	地元の合意形成と、行政との協議
●	鷹取救護基地	鷹取教会、ボランティア	H7		ボランティアの活動拠点	外国人への情報提供、医療施設、救護活動など
●	NPO法人 たかとりコミュニティセンター (TCC)	FRDいわい、ソープワープ、ワールドコミュニケーション NGOベトナムinKobe、多言語センターFACIL、アジア女性自立プロジェクト、ワールドキッズコ	H12	-	多文化共生のまちづくり	多言語での情報提供、教育、IT関係、高齢者・障害者の自立支援、外国人コミュニティ活動など
・	大国公園管理会	地域住民	S40代	大国公園完成		大国公園、海運双子池公園の管理
▲	海運コミュニティプラザ運営委員会	婦人会・自治会の有志	H11	復興受諾住宅完成(集会所設置)	集会所を高齢者を含めたコミュニティの場所とする	ふれあい喫茶の実施等
▲	ふれあいまちづくり協議会	婦人会・自治会の有志	H15	ふれあいまちづくり協議会への結成制度復活	*	ふれあい喫茶の実施等
♣	エコタウンのできたサークル	地域の有志	H13	エコタウン助成制度	環境にやさしいまちづくり	かわらばんでゴミ出しマナーなど呼びかけ、商品回収
★	野田北ふるさとネット	野田北部自治連合会、野田北部まちづくり協議会、長田千歳婦人会、民生委員・児童委員、各町長寿会、大国公園管理会、海運コミュニティプラザ運営委員会、野田北部集会所管理会、野田北部子ども会、エコタウンのできたサークル、たかとりコミュニティセンター	H14	ふるさとづくりの検討	野田北部地区を地区内の住民や事業者、地区に関わる諸団体、行政など様々な人々の参加と協力により、人情味あふれ、安全で安心な「住みたい、住みつけたいふるさと」の実現をめざす	・月1回の定例会 ・部会(かんがえーる会、やってみーる会) ・サークル活動 ・ふるさとかわらばんの発行 ・各種コミュニティビジネス(ワークショップグッズ、街路中心線プレート、ミニヤード、体験学習受け入れ事業など)

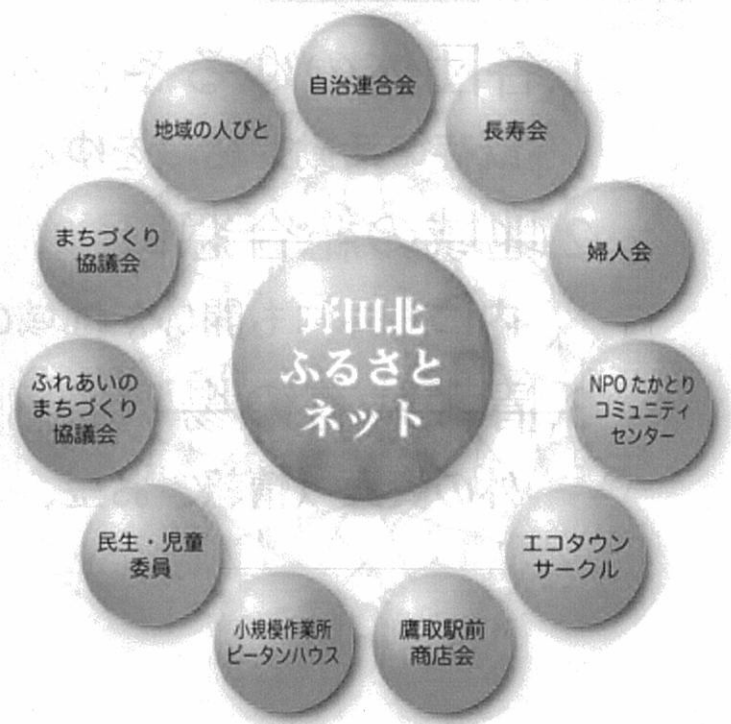
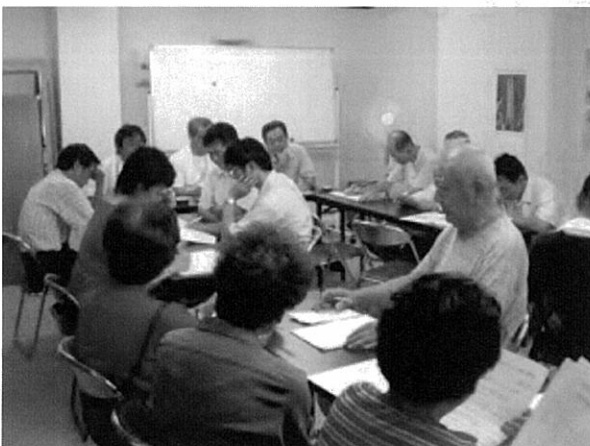
# 1999年3月野田北部コミュニティ宣言 ～ハードからソフトへ～

2002年1月「野田北ふるさとネット」発足

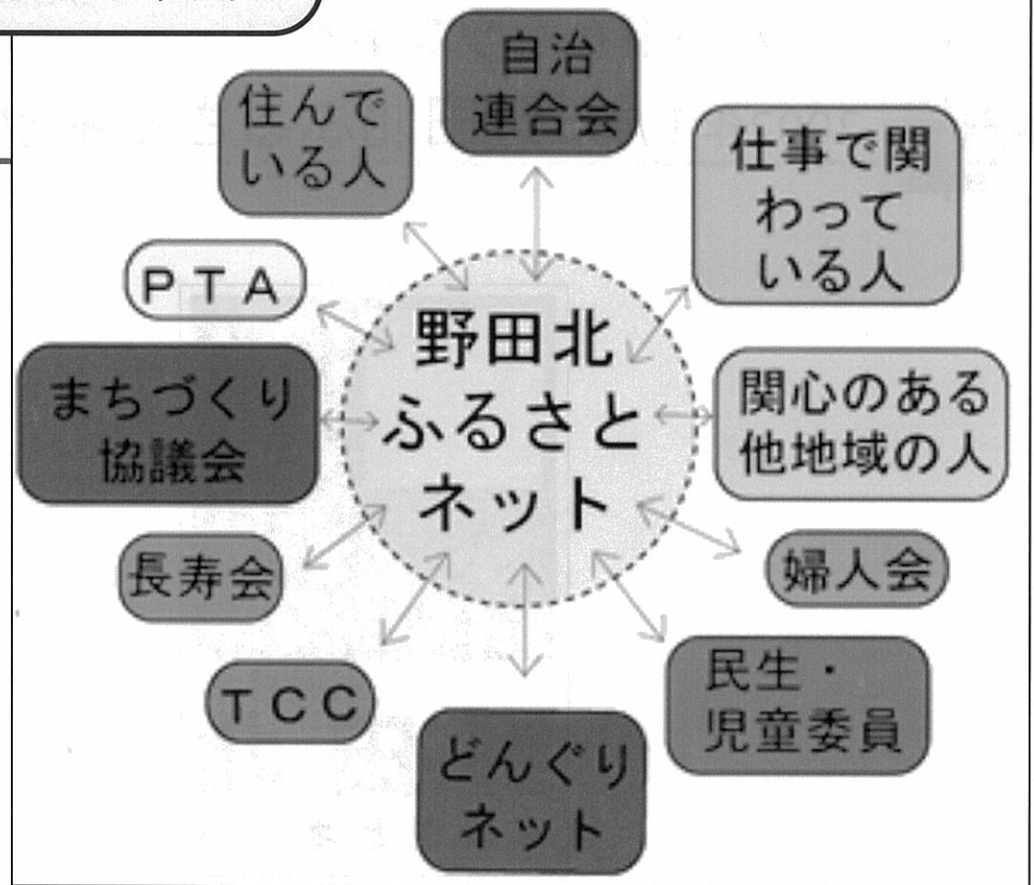


## 野田北ふるさとネット

定例会の様子（毎月第3木曜日）



## 野田北ふるさとネット



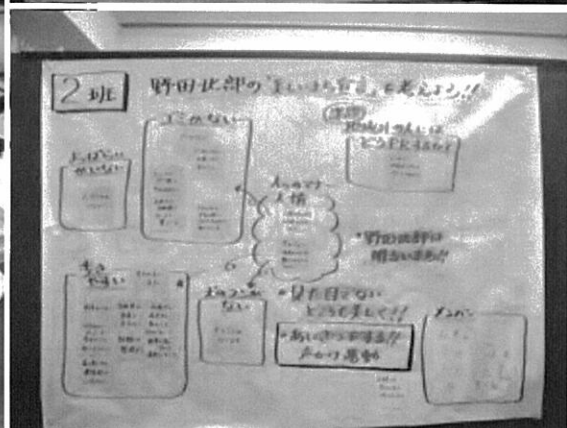
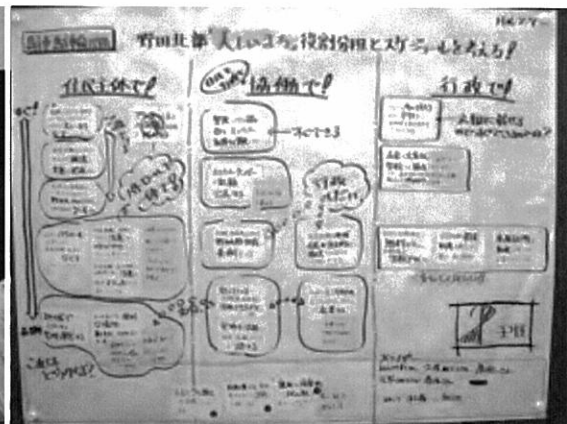
## ふるさとネットの役割

- 1.各団体のゆるやかな連携を促進する場  
既存の活動や組織をゆるやかに包みこんでいく
- 2.地域の総合窓口  
内にも外にも開いた地域の窓口として
- 3.情報共有の場  
外の資源（情報、お金、人材）を役立てる

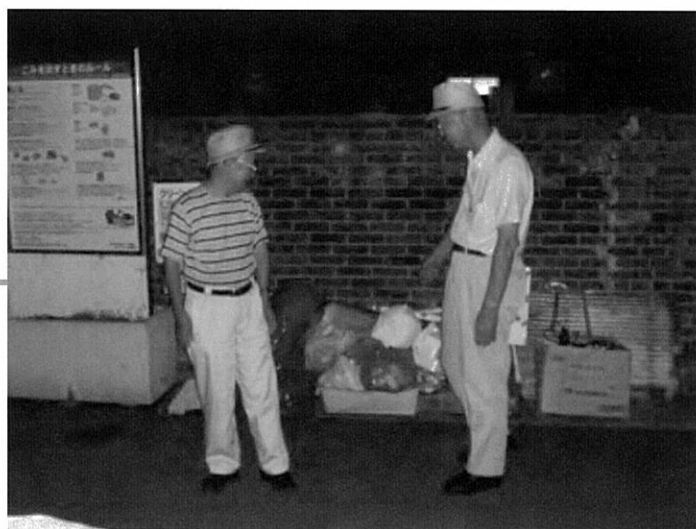


# 美しいまちへの取り組みワークショップ

(全7回/2003年9月24日~2004年4月26日)



美しいまちを目指した  
自主的な取り組み



クリーンステーション立ち番  
※現在休止中



クリーンパトロール



地域内のNPOたかとりコミュニティセンターとの協働事業  
駅前駐輪場の管理スタート  
(05年8月1日、06年9月1日からは北側も)

駐輪場を管理して  
駅前の一体的管理を目指す

### 駐輪場の管理

- 一時券・回数券・定期券販売
- 日報・月報作成
- 不正利用者への注意・指導
- 場内巡回・場内整理

迷惑駐輪の  
注意・監視

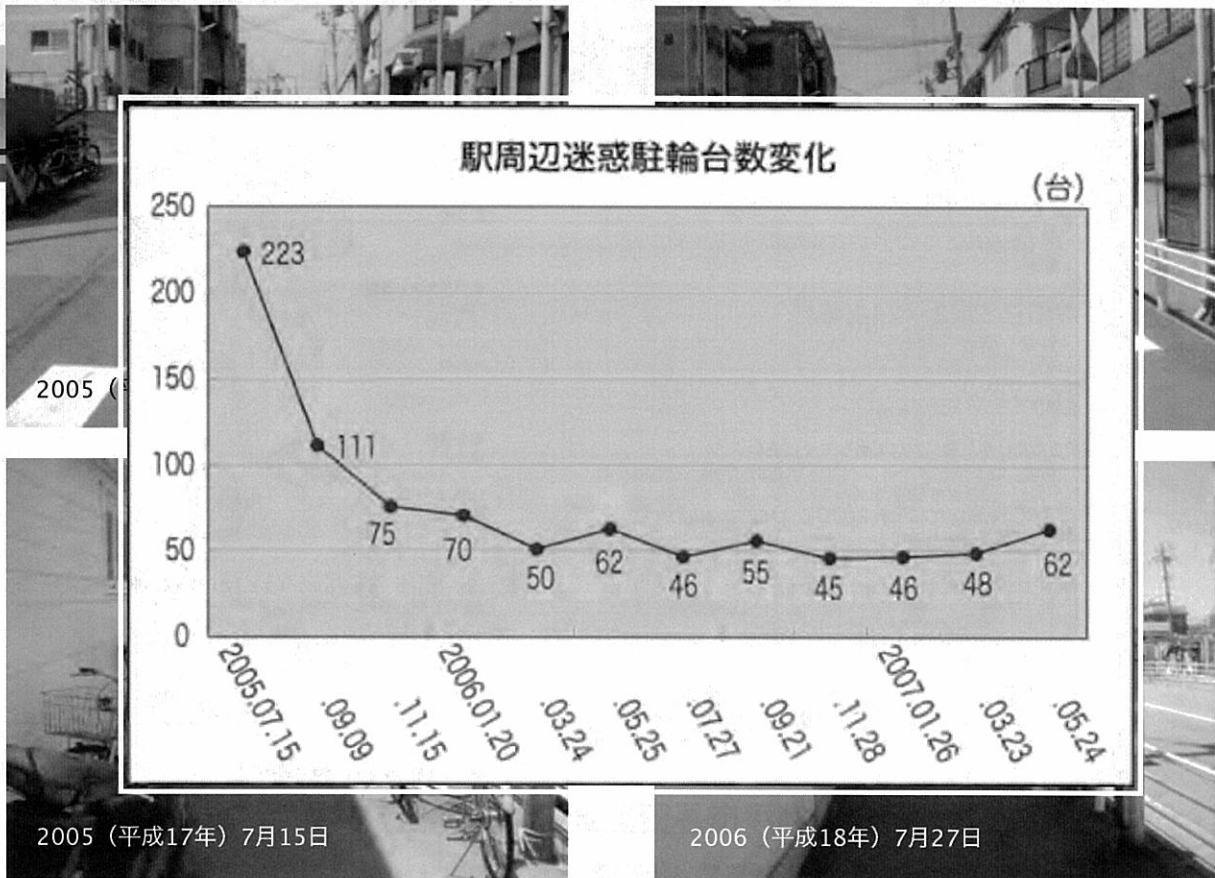
子供  
110番

駅前の清掃

駅周辺の  
道案内

プランター  
の水やり

# 迷惑駐輪台数定点観測



## 【2005年度までの取り組み】



「美しいまちを考える」ワークショップ  
(7回開催)とまち歩き



「美しいまち宣言」(2004.6.17)



野田北部地区  
「美しいまち」パートナーシップ協定 締結式  
パートナーシップ協定の締結  
(2005.6.13)



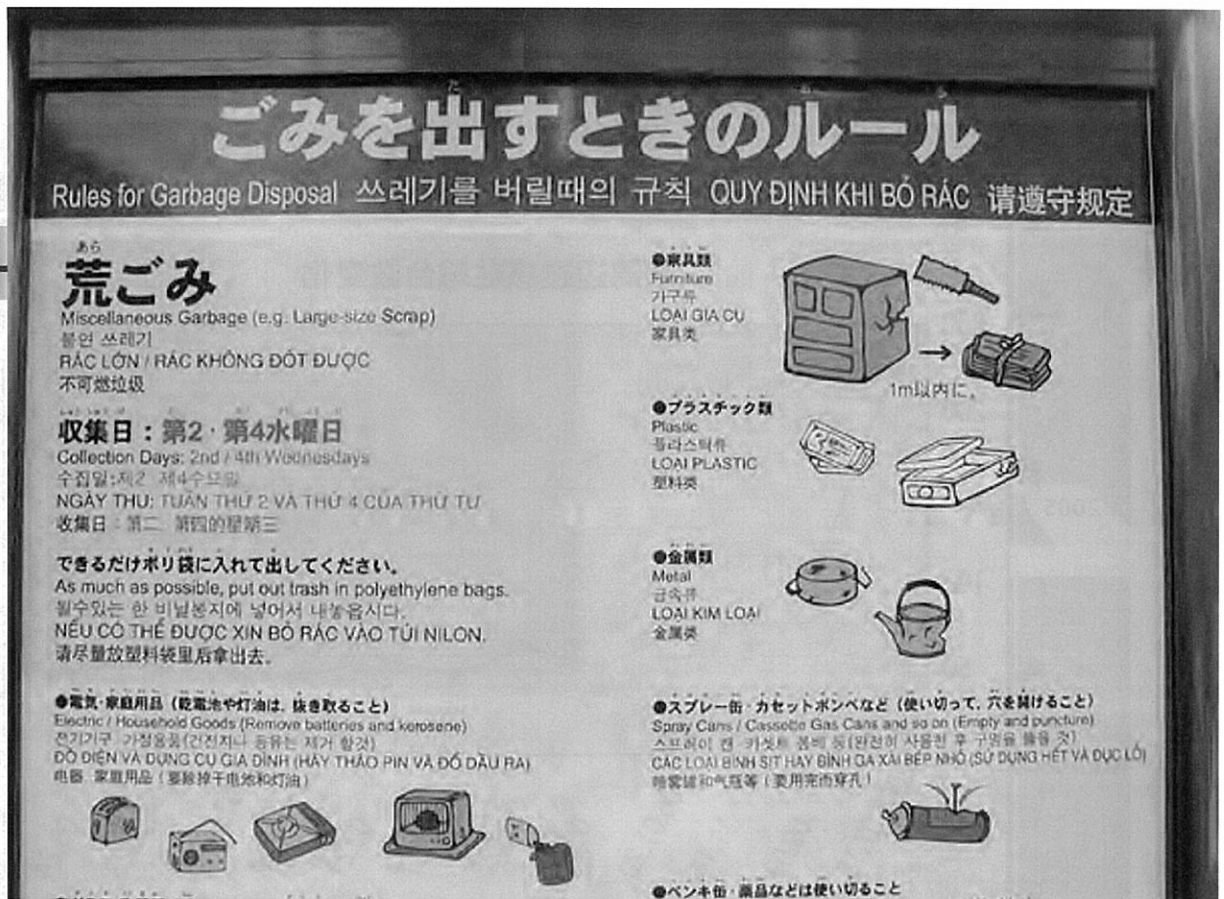
JR鷹取駅前駐輪場の指定管理者運営  
(2005.8.1 NPO法人たかとりコミュニティーセンター)



地域活動推進サポーター  
(2005.6.20～)

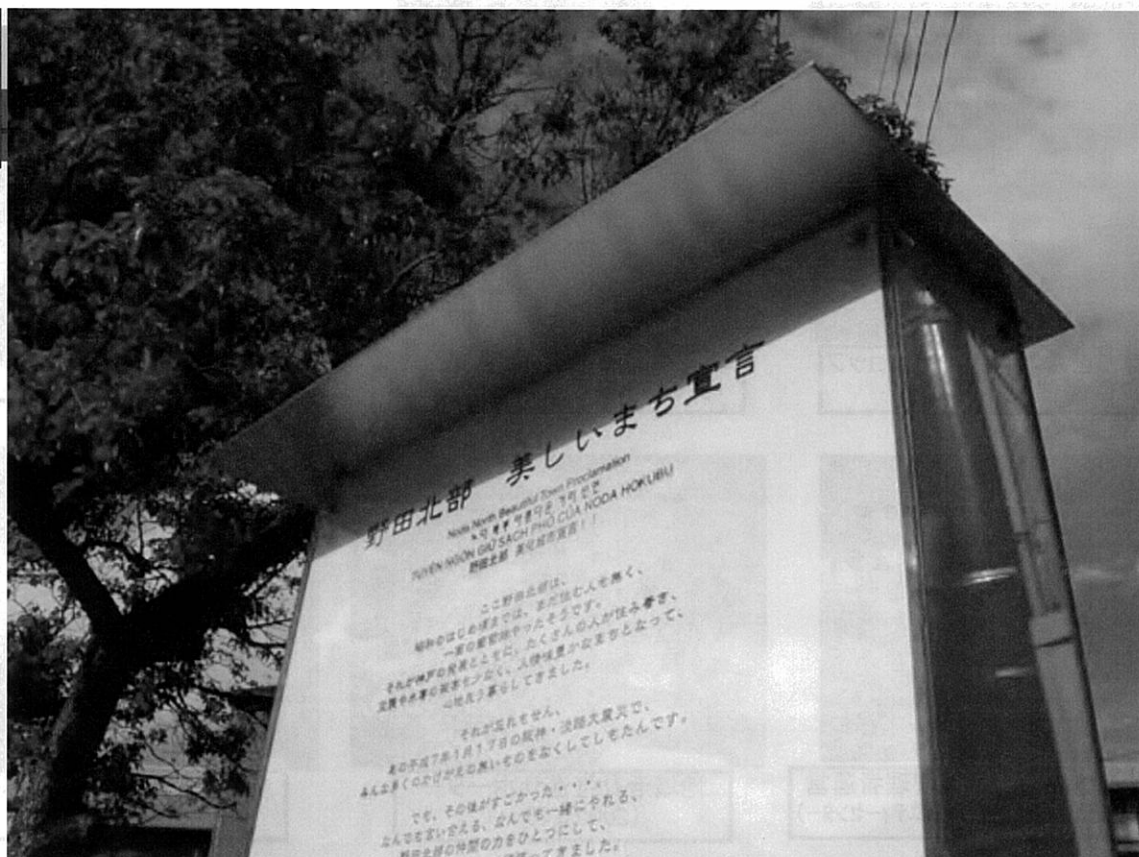


美しいまち協働キャンペーン  
(2005.7月)



5カ国語の掲示板 (神戸市長田区野田北部地区)  
 (まちづくり協議会+NPO+区役所)

## 野田北部 美しいまち宣言 (2004年)



## 結論 : Conclusion

### 松本せせらぎと野田北ふるさとネット

Matyumoto Stream & Noda Kita Community Network

日々の防災環境改善運動とは日常的な街の環境への関心を確認し、高めることである。

都市環境基盤が防災的に完璧に整備されていたとしても、それを上回る大災害が襲いかかってくる可能性はあり、自然の脅威は底知れない。

ハードな環境整備と合わせて、ソフトな環境運動が必要な理由であり、日常的にはそちらの方が重要である。